

立神岩

● 高橋 六二

昨平成20年5月、愛媛県西宇和郡伊方町^{いかたちょう}の立神岩^{たてがみ}をやっと見ることが

できた。30年近くも前から続けてきた各地の立神の採訪だが、ここは機会がなくて見残したままにしているのが気がかりだった地である。

学会を終えて博多駅を早朝に出発、臼杵駅で下車、臼杵港発11時35分の八幡浜行きオレンジフェリーに乗った。快適な乗り心地の船で、豊予海峡も穏やかだった。神武天皇東征神話の速吸瀬戸はやすいのせとに当たるわけだが、潮流の早さの実感がないほどに安定感のある船だ。船内アナウンスは揺れに注意と言っていたから、それなりの流れではあったのだろうが……。

13時55分、八幡浜港着。タクシーで伊方町役場に向かった。町見郷土館学芸員の高嶋賢二氏が待っていてくださり、ホッとした。ご自分の車でご案内くださるというのだ。この先は交通の便のないところだと知っていたから、これほどありがたいことはなかった。山の斜面の細道をいく曲がりかして行くと、瀬戸内海が見えてきた。

一つの大きな曲がり角で車を止め、あの遠くに見えるのが立神岩、

今日はよく見えます、と高嶋さんが指さす遙かに、くっきりと屹立した岩が見える。あゝ、いい!!

そこから脇の細道に車を入れ、舗装のない藪中をどンドン下り、磯近くまで進むと行き止まりになった。歩いて磯に出てみると人影はまったくない。人の来るところではないのだろう。玉石に寄せる午後の波音が静けさを深めてくれる。

その磯伝いに5、6度も崩れ岩のあるところを越えきると、目の前に立神岩があった。あらかじめ高嶋さんが用意してくださった



「広報伊方町」第356号（平成4年4月号）には「立神岩の大ダコ」という記事が載っている。

今におき「お立神」とよんだらどうだろうか。この立神岩の下に、畳八枚敷もあろうかと思われる大ダコの話があるがよ。

その大ダコが釣り人を海中にひっぱりこんだり、魚釣りの伝馬船をひっくり返したり、貝や海藻を採る海士を苦しめたりするので、退治することになった。勇敢な男が飛び込んで悪戦苦闘の末、タコの足の吸盤ひとつを切り取ってきた。それが^{いぼ}笊の太さ（直径48cm）ほどあった。

それからというものは、立神岩の周辺では、大ダコが足の吸盤を切り取られたのを怨みに思い、大暴れしては大変

だと、漁師も海士も近寄らず、漁もせんようになったと語り草になっらい。

この話、一読した限りでは世俗的な内容である。またこの岩に関わる祭りもなさそうである。しかしこの大ダコというのは海の精霊だったのだろう。つまり立神岩の聖性を守るために設定されたのではなかろうか。太古の昔、この地に住み着いた人々の神を祀るのがこの立神岩ではなかったか、と想像しているのである。

この磯は鯛ノ浦（退ノ浦）といわれ、壇ノ浦で敗れた平家一門が安徳天皇の遺体を奉じて上陸した岩というのが伝えられ、平家大明神を祀る鯛ノ浦神社もある。こんな歴史化された伝説のある地の、古代があったはずだと考えるのである。